

## 58

## 古方派黎明期における張仲景関連書の扱い

松岡 尚則<sup>1,2,3)</sup>, 別府 正志<sup>4)</sup>, 並木 隆雄<sup>5)</sup>, 山口 秀敏<sup>6)</sup>  
 中田 英之<sup>7)</sup>, 頼 建守<sup>4,8)</sup>, 笛木 司<sup>9)</sup>, 安部 郁子<sup>3)</sup>  
 岩井 祐泉<sup>10)</sup>, 牧角 和宏<sup>11)</sup>, 秋葉 哲生<sup>12,13)</sup>

<sup>1)</sup> 東邦大学総合診療・急病講座, <sup>2)</sup> 高知総合リハビリテーション病院, <sup>3)</sup> 公益財団法人 研医会図書館

<sup>4)</sup> 東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター, <sup>5)</sup> 千葉大学大学院医学研究院和漢診療学

<sup>6)</sup> 信州医療福祉専門学校, <sup>7)</sup> 練馬総合病院, <sup>8)</sup> 新宿海上ビル診療所つるかめ漢方センター

<sup>9)</sup> マツヤ薬局, <sup>10)</sup> 吉祥寺東方医院, <sup>11)</sup> 牧角内科クリニック

<sup>12)</sup> 伝統医学研究会あきば伝統医学クリニック, <sup>13)</sup> 東邦大学医療センター佐倉病院

**【緒言】** 日本の江戸期に古方派という流派が出現した。この古方派の黎明期に関わった松原一閑斎の師の並河天民は、伊藤仁斎の説に反して儒医を肯定したのみならず、自ら医術を修めた。天民門の三傑に渡邊毅(弘堂・新蔵)、松原一閑斎(才次郎)、清水敬長が挙げられている。そこで、並河天民の『傷寒論』に対する考え方を知る上でも、天民門の三傑の医学について考察を行った。

**【方法】** 並河誠所『天民遺言』(愛媛大学蔵)、中山壺山『医方新古弁』(京都大学富士川文庫蔵)、渡邊毅『傷寒論辨疑』(東北大学狩野文庫蔵)、合田求吾『医道聞書』(鎌田共済会郷土博物館蔵)、清水敬長翻刻『金匱玉函経』(研医会図書館蔵)、『養寿院医則』に含まれる『厥説』(京都大学富士川文庫蔵)、『平安人物志』(安永四年(1776)(日文研蔵)、『和蘭全軀内外分合図並びに驗号』(東京大学蔵)、『松原氏古方集驗』(高知大学蔵)、『成章堂附方考録』『松原方則』(松岡尚則蔵)、『私擬分量考』『松原先生傷寒論金匱分量臆記』(京都大学富士川文庫)を調査した。さらに、真言宗智山派 清閑寺(京都市)にある並河天民の墓を調査した。

**【結果】** 中山壺山『医方新古弁』には「抑傷寒論ヲ尊信スベシト云出セルハ吾邦ニテハ並河天民先生也。」と記載を認めた。合田求吾『医道聞書』には「○東洋曰医ハ英雄ナラズンバ大功ヲ立ルコトアタハズ。此古方ノ起リハ有馬良牛ト云者天下ノ英雄ニテ後西院ノ違勅ヲ蒙リシ程ノ人ナリ。ソレヨリ天民ニ伝ヘラレタリ。渡邊新蔵ノ父ハ此良牛ノ門人ナリ。天民ノ曰、我門人ヲミルニ金蔵ノ番ヲサスルニ金ヲ盗マルノ者斗ニテ金ヲトラレズサキノ金ヲ取テクル程ノ者ハナイト云ワレタリ。是英雄ノ氣象ナリ。医ノ君子ハ良山、医ノ英雄ハ良牛ナリ。道作廿歳ノ此傷寒論ヲヨメヨト教ヘラレシ人ハ松原才次郎・渡邊新蔵也。手習ハ渡邊ニテ習レシナリ。」との記載を認めた。この道作は、『平安人物志』の記録とあわせて考えると、山脇東門であると考えられた。東北大学狩野文庫に渡邊毅『傷寒論辨疑』が蔵されていた。『傷寒論辨疑』は趙開美本『傷寒論』ではなく、張卿子『傷寒論』を元に註釈が記されていた。さらに、『傷寒論辨疑』は『金匱玉函経』『千金方』『三因方』『傷寒類証活人書』『金匱要略』との比較がなされていた。清水敬長は『厥説』を著し、清朝の康熙56年(1717)上海の陳世傑刊行の『金匱玉函経』を1746年(延享3年)翻刻していた。また、敬長は『和蘭全軀内外分合図並びに驗号』の出版に関わっていた。松原一閑斎は方証相對の形式で張仲景方を使用していた。また、張仲景方を換算するような分量形態を考案していた。『天民遺言』および墓碑より並河天民の墓は渡邊毅が識していることが判明した。

**【総括】** 渡邊毅は『傷寒論』の解説書を著していた。清水敬長は『金匱玉函経』の翻刻や『素問』・『靈枢』と張仲景方とその後の医説の比較を行っていた。松原一閑斎は張仲景方に対して、方証相對で処方を行っていた。これらから考えると、天民門の三傑といわれるいずれの人物も張仲景関連の書を重要視するような業績を行っていたといえる。並河天民の張仲景方に関する直接の著書は見いだせなかったものの、中山壺山の指摘のように天民は傷寒論を尊信したものと考えられた。